

J.S.バッハの作曲過程と演奏へのヒントを八分音符の連桁から読み解く

富田 庸

Queen's University Belfast, UK (y.tomita@qub.ac.uk)

日本音楽学会第 66 回全国大会研究発表用配布資料(2015.11.15) セッション 0-1

表 1 — バッハが用いた八分音符の連桁の 2 種類の形


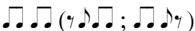








拍子	バッハの通常形の連桁 (延長形)	例外的な形 (既定形)
2/4	 (↑ ↓ ↓ ↑; ↑ ↓ ↓ ↑)	
3/4	 (↑ ↓ ↓ ↓ ↓ ↑; ↑ ↓ ↓ ↓ ↓ ↑)	
4/4		
6/16		
12/16		

表 2 — 『性格的な連桁』が使用された 2 種類のタイプ

性格的な連桁の 2 つのタイプ	例
1) 跳躍する音程が連合する八分音符群で、活発な演奏やスタッカートのアーティキュレーションを示唆するもの	<ul style="list-style-type: none"> 平均律第 1 巻：第 3 番 フーガ(譜例 3)、プレリュード第 14 番、プレリュード第 15 番、プレリュード第 21 番 ゴルトベルク変奏曲：第 28 変奏、第 29 変奏
2) 同音上の繰返し・音階の順次進行する八分音符群で、ゆったりとした速度とムードを示唆するもの	<ul style="list-style-type: none"> オルガン小曲集：BWV 621, 638, 639 パルティータ第 2 番、第 1 楽章, andante セクション インヴェンション第 15 番 平均律第 1 巻：プレリュード第 12 番、プレリュード第 16 番 (譜例 4) 平均律第 2 巻：プレリュード第 20 番

表 3 — バッハが二種類の八分音符の連桁を使用した理由を推察する

理由	バッハの通常形の連桁 (延長形)	例外的な形 (既定形)
音楽的に注意を払う	水平的 (旋律的関心)	垂直的 (和声的関心)
音楽素材の使い分け	モチーフ	終止形の音型
書体	薄い	厚い (かつ密集している)
曲中のポジション	早い	遅い

表 4 — 平均律第 2 巻よりフーガ第 1 6 番ト短調の自筆譜にみられるバッハの八分音符連桁形 (1)
主題呈示中に繰り返される 6 音を結ぶ連桁形

小節	声部	主題のタイプ	連桁数 × 音符数	例外形へのコメント
4	T	Dux	1 × 6	
8	A	Comes	1 × 6	
12	S	Dux	2: 4+2	バッハの原本 (喪失) で譜表の段落が変わった?
23	T	Comes	1 × 6	
31	A	Dux	2: 2+4	小節の途中で新しい頁に移行したため、不可避
35	S	Dux	1 × 6	
39	B	Comes	1 × 6	
48	T	Dux	1 × 6	
	A	(追加された 3 度)	3: 2+2+2	ソプラノ声部との記譜上の衝突を避けるため
54	S	Dux	1 × 6	
	A	(追加された 6 度)	1 × 6	
62	B	Dux	1 × 6	
	T	(追加された 3 度)	1 × 6	
72	S	Dux	1 × 6	
	T	(追加された 6 度 var.)	1 × 6	
82	B	Dux	1 × 6	

表5 — 平均律第2巻よりフーガ第16番ト短調の自筆譜にみられるバッハの八分音符連桁形(2)
経過句で用いられた八分音符の連桁形

経過句(小節)	連桁がある小節(声部)	連桁数×音符数	コメント
1(17-20)	17(S), 18(A)	1×4	第9小節の跳躍する音型の模倣
2(24-28)	24-27(B)	3: 2+2+2	第9小節の跳躍する音型の模倣 五度圏で転調してゆく
3(40-45)	44(B)	3: 2+2+2	終止形の音型
4(49-51)	n/a	n/a	n/a
5(55-59)	55(B)	3: 2+2+2	終止形の音型
6(63-67)	63(A/B), 65(B), 66(T/B)	1×4と3: 2+2+2	終止形の音型

[表6は本冊子の最後のページにあります]

表7 — 平均律第1巻よりフーガ第16番ト短調の自筆譜上における主題の
冒頭モチーフ(♩♩♩)の八分音符連桁形の解析

小節	拍	声部	連桁形	例外形になった理由を推測(追加のコメント)
1	1-2	A	延長	
2	3-4	S	延長	
5	1-2	B	延長	
6	3-4	T	延長	
7	1-2	S(false entry)	延長	(変形)
12	1-2	A	延長	
13	3-4	B	延長	
15	1-2	S	延長	
17	1-2	B	延長	(先行する音符に連桁が繋がられる: ♩♩♩)
17	3-4	A	延長	
20	1-2	B	延長	(先行する音符に連桁が繋がられる: ♩♩♩)
21	3-4	S	既定	先行する音符に連桁が繋がられる(♩♩♩); ページ変更直後
23	1-2	A(装飾)	既定	主題の第1音が装飾され、2つの16分音符に(♩♩♩)
28	1-2	S	延長	(先行する音符に連桁が繋がられる: ♩♩♩)
28	3-4	T	延長	
29	1-2	B	延長	
31	3-4	A	延長	
33	1-2	T	延長	

表8 — 平均律第1巻よりフーガ第16番ト短調の自筆譜上における対主題の
末尾モチーフ(♩♩♩)の八分音符連桁形の解析

小節	拍	声部	連桁形	例外形になった理由を推測(追加のコメント)
3	3-4	A	既定	
6	1-2	S	延長	誤って第4小節の codetta ♩♩♩ を参照した?
7	3-4	B	既定	
13	1-2	T	既定	
14	3-4	T	既定	
16	1-2	B	既定	
18	1-2	S	既定	(譜表の段落変更により分割)
21	1-2	A	既定	
22	3-4	B	既定	
24	1-2	B(反行形)	既定	(ローカルカデンツ)
32	3-4	B	既定	
34	1-2	B(形が変更)	既定	(最後のカデンツ)

J.S.バッハの作曲過程と演奏へのヒントを八分音符の連桁から読み解く

富田 庸

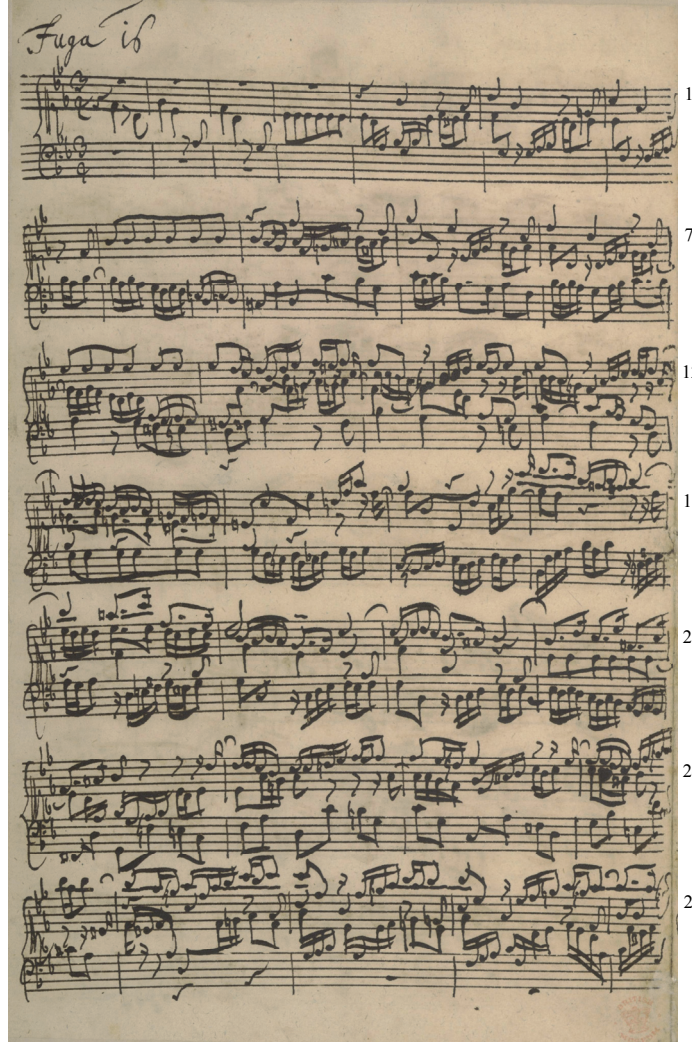
Queen's University Belfast, UK (y.tomita@qub.ac.uk)

日本音楽学会第 66 回全国大会研究発表用配布資料 (2015.11.15) セッション 0-1

譜例 1 平均律第 1 巻よりフーガ第 3 番嬰ハ長調
(自筆譜 D-B, Mus. ms. Bach P 415): 冒頭



譜例 3 平均律第 2 巻よりフーガ第 16 番ト短調
(自筆譜 GB-Lbl, Add.MS. 35021): f.12v (r.h. col.)



譜例 2 平均律第 1 巻よりプレリュード第 16 番ト短調
(自筆譜 D-B, Mus. ms. Bach P 415): 冒頭



譜例 4 平均律第 1 巻よりフーガ第 1 番ハ長調 (自筆譜):
冒頭の 3 譜表 (第 1-10 小節)



譜例 5 平均律第 1 巻よりフーガ第 16 番ト短調 (自筆譜):
冒頭の 3 譜表 (第 1-8 小節)



譜例 6 ゴルトベルク変奏曲より<アリア> (オリジナル印刷譜・1741年 第27-32小節): 短い八分音符連桁が和声進行を強調?



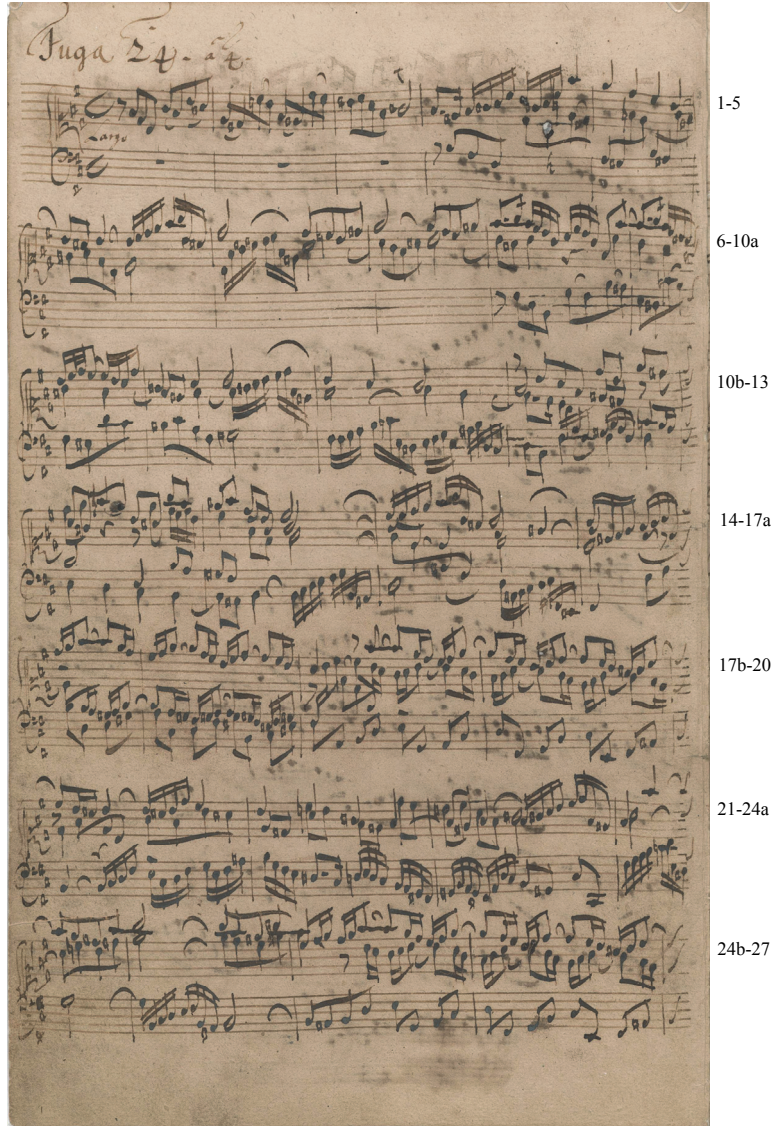
譜例 7 ゴルトベルク変奏曲より<第14変奏> (オリジナル印刷譜・1741年 第1-9小節): 第6-7小節がヘミオラを明示?



譜例 9-平均律第2巻よりプレリュード第20番イ短調 (自筆譜) 冒頭



譜例 8 平均律第1巻よりフーガ第24番ロ短調 (自筆譜): 冒頭ページ (第1-27小節)



譜例 10 平均律第2巻よりフーガ第6番ニ短調 (Anna Magdalena Bachによる筆写譜 GB-Lbl, Add. MS. 35021, f.4v)

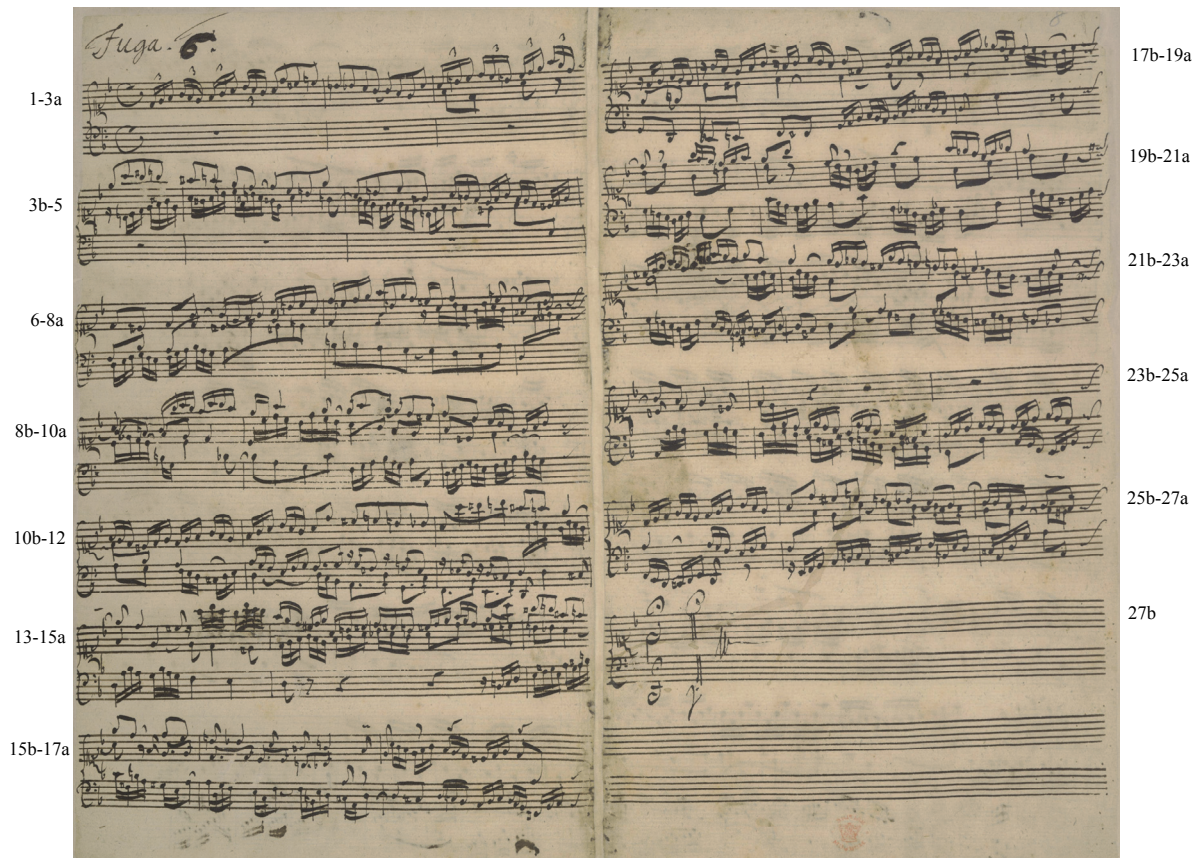



表9 — 平均律第1巻よりフーガ第24番ロ短調の自筆譜上における主題呈示中に見られる八分音符連桁形の解析

小節	主題呈示声部	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	声部数	ポジション
								
1	Alto	■	■	■	■	■	1	単独
4	Tenor	■	■	■	■	■	2	最も低い
9	Bass	■	■	■	■	■	3	最も低い
13	Soprano	■	□	■	□	□	4	最も高い
16	[Tenor]	■	□				4	中間
19	[Tenor]	■	□				4	中間
21	Alto	■	■	□	□	□	4→3	中間
28	[Tenor]	■	□				4	中間
30	Tenor	■	■	□	□	□	4→3	最も低い
34	[Alto]	□	□	□	□		3	中間
35	[Soprano]	■	□	□	□		3	最も高い
38	Bass	■	□	□	□	□	4	最も低い
41	[Soprano]	□	□	□			3	最も高い
42	[Alto]	■	□	□	□		3	中間
43	[Bass]	□	■	□	□		3	最も低い
44	Tenor	■	□	□	□	□	4	低い (ペダル音を除けば最低)
47	Bass	■	□	□	□	■	4→3	最も低い
53	Tenor	■	■	■	□	□	3	最も低い
57	Bass	■	□	□	□	□	3	最も低い
60	Tenor	□	□	□	□	□	3	最も低い
70	Bass	■	□	□	□	□	4	最も低い
74	[Alto]	■	□	□	□	□	4→5	中間

- 主題提示声部 — 完全な形で提示される主題が現れる声部は、**太字**で示した。その他の断片や不完全な呈示は、灰色+四角括弧で括った。
- (a)–(e) — 5箇所の八分音符連桁のグループをそれぞれ(a)から(e)まで切り分け、延長形は濃い灰色で、既定形は薄い灰色で示した。
- ポジション — 主題がテクスチャの最も低い声部に現れるものを**赤字**で示した。

表 6 — 平均律第 1 巻よりフーガ第 1 番ハ長調の自筆譜上におけるにみられる冒頭モチーフ(♩♩♩)と末尾モチーフ(♩♩♩)の八分音符連桁形の解析

小節	声部	冒頭モチーフ が現れる拍	連桁形	例外形になった理由を推測 (追加のコメント)	末尾モチーフ が現れる拍	コメント
1	A	1-2	延長		4-1	
2	S	3-4	延長		2-3	
4	T	1-2	延長		4-1	
5	B	3-4	既定	テノールの八分音符がタイで繋がられている。原本がここで譜表の段落変更の可能性	2-3	
7	S	1-2	延長		4-1	
7	T	2-3	既定	(段落変更により、小節が分割されている)	1-2	
9	A	1-2	延長		4-1	
10	B	3-4	既定	段落変更により、小節が分割されている	2-3	
10	A	4-1	既定		3-4	
12	T	1-2	延長		4-1	
14	A	1-2	延長		4-1	
14	T	2-3	既定		1-2	
15	B	1-2	延長		4-1	
15	S	3-4	延長	(主題の不完全呈示)	n/a	
16	S	2-3	既定		1-2	
16	A	3-4	既定	主題呈示が休符で始まらず、前フレーズから続く(♩♩♩); 16 S の stretto Comes	2-3	
17	T	1-2	延長		4-1	
17	B	3-4	n/a	冒頭が変形されている(♩♩♩ではなく、♩で始まる)	2-3	
19	T	1-2	延長		4-1	頁変更により分割
19	A	2-3	既定		1-2	
20	B	3-4	延長	(不完全な主題呈示; 休符で始まらず、音符が先行)	n/a	
20	S	4-1	既定		3-4	
21	T	3-4	既定	主題呈示が休符で始まらず、前フレーズから続く(♩♩♩); 20 S の stretto Comes	2-3	
24	T	1-2	延長	(主題呈示が休符で始まらず、音符が先行)	4-1	
24	A	3-4	延長	(主題呈示が休符で始まらず、タイで保持された音符が先行)	2-3	
24	S	4-1	既定	(主題呈示が休符で始まらず、音符が先行)	n/a	装飾されている